

弘大『キャリア@通信』vol.004

弘前大学学生就職支援センター

〈Voice①〉『大切な仕事を任せてもらっています!』

五所川原街づくり株式会社

長谷川直美さん (平成 22 年 人文学部卒)

岩崎 利奈さん (平成 22 年 人文学部卒)

〈Voice②〉『“美味しい商品”を提案していきたい!』

株式会社シジシージャパン

木村 亮太さん (平成 23 年 農学生命科学部卒)

〈Voice③〉『仕事は“自分で見つける・自分で考える”が大切!』

独立行政法人 中小企業基盤整備機構

狩野 紫穂さん (平成 20 年 教育学部卒)

●弘前大学フォーラム

『課題解決型学習と学生の主体的な学び』

平成 24 年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け、第 1 回目となる弘前大学フォーラムが開催されました。

●コラム「キャリア・アンカー」

～エドガー・H. シャインのキャリア論～

●21世紀教育（キャリア教育）

社会と私ー仕事を通して考える

●Information

弘前大学インターンシップ

弘前大学主催 合同企業説明会

キャリア@通信 Voice①

大切な仕事を
任せてもらっています!

五所川原街づくり株式会社
営業部 販売促進部門担当
はせがわ なおみ
長谷川 直美さん
(平成22年 人文学部卒 25歳)



営業部 衣料部門担当
いわさき りな
岩崎 利奈さん
(平成22年 人文学部卒 25歳)

BUONA GIORNATA
RENEWAL OPEN!!
2013.3.15



店舗の方々に、色々教えて
いただいています。

●現在どのようなお仕事をされていますか。

岩崎：弊社は五所川原にあるELM(エルム)の管理運営を行っています。私は営業部でファッションの担当をしています。衣料品の店長さんとお店をどうやって良くしていくかお話をしたり、エルム全体をどう良くしていくかを考えるのが仕事です。新しい出店の店舗開発は別な部門が担当していますので、私は出店されたお店の方とのやりとりをします。衣料品はブランドも多く、まだ知らないことがたくさんあります。店舗の方々に色々教えていただいています。

月に1回、店長面談があります。今だともう春物が入っていて、どれくらい売れているかの動きを聞きながら、課題などのお話をします。店長さんは女性が多く、母親の年代の方もいます。仕事は大変ですが、みなさん優しいです。

長谷川：私は販売促進担当で、主に広報担当です。広告やチラシ、館内に掲示される印刷物など、お客様の

目にふれるものを整えたり、テレビやラジオに流す内容の仕事もあります。イベントや催事では、芸能人を呼んだトークショーやライブを企画・運営する仕事もあります。

●3月に大きなリニューアルをされると聞きましたが。

岩崎：リニューアル後に店舗も増えます。少し忙しくなりますが、気合いを入れ直しています。これからだと思っています。

同期入社です。大切な仕事を
任せてもらっています。

●お二人は同期入社なのですか。

岩崎：はい、私たちは人文学部卒の同期入社です。この年の新入社員は2名で、まだ後輩はいません。二人で一番下の社員ですが、大切な仕事を任せてもらっています。

●仕事はどう覚えるのですか。

長谷川：最初のうちは、上司や先輩にいっしょについてもらって、手とり足とり教えてもらいました。今は、まず私の方で仕事を組み立てて、それを先輩にチェックしてもらい、「ここはもう少しこうした方がいいよ」と修正していただき

ます。

●販売促進の仕事は大変で、評価も厳しいのではありませんか。

長谷川：イベントや催事は実施するだけではダメなので、店舗の方からの評価にドキドキしています。良いときは「良い」、悪いときは「悪い」と言ってもらっています。イベントを開催しても、今回は全然売上につながらなかった…とか、この時期にこの芸能人を呼んでも…とか、店舗の方から直接ご意見を聞きます。店長さんとよくお話をする岩崎さんや営業部の方々からも、この部門ではこういう声が多かったなどと教えてもらっています。



五所川原街づくり株式会社は、ELM(エルム)の運営管理を行っています。

学生の頃とは、時間の使い方、
責任感が変わりました。

●学生の頃と社会人では何が変わりましたか。

岩崎：学生の頃とは「時間」が変わりました。例えば、翌日に授業があっても、夜中の3時まで起きていたりしましたが、今は、仕事を優先して考えるようになりました。昔の自分と比べると、時間の使い方が全然違いますね。

長谷川：私は責任感が変わりました。仕事をする相手先もあるし、お客様もいるので、自分がこの決断をして本当に大丈夫なのかと、ひとつの仕事に対する責任を持つ気持ちが変わりました。

仕事を頑張った分、
休みの大切さを実感します!

●仕事で辛いことはありましたか。

長谷川：販売促進は、今日この原稿を出さないと締め切りに間に合わないということがあります。時間はあってもあっても足りないです。休みの日に仕事に出てくることもあります。でも、仕事を頑張った分、休みの大切さを実感することができます。今

週、友達と出かけると思えば、仕事を頑張る力にもなります。

岩崎：私は結構プラス思考なので「もうダメだ〜」というのは無いんですけど、失敗も色々あるので、その都度、落ち込むこともあります。「これを糧に乗り越えよう!」と考えて頑張ります。

朝4時半集合。川で網を投げて
魚を取っていました。

●どのような学生生活でしたか。

岩崎：大学のサークルではなく、学生の時から地元のバスケットチームに入っていました。五所川原から通っていたので、通学には時間がかかりましたね。

長谷川：結構活発に活動していましたよ。フィルハーモニーではフルートを担当していました。学部の勉強でも変わった活動をしていて、「漁師さんたちと釣りをする!」とか、朝4時半に集合して、川で網を投げて魚を取っていました。

人と出会って、体験できる
ことは何でも体験してみる!

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

長谷川：体験できることは何でも体験してみると良いと思います。どんな人前でも発言したり、色々なサークル活動やアルバイト、ボランティアの参加など積極的にやってみると良いと思います。社会に出てからも、しっかり自分の意見が言えるようになると思います。

岩崎：色々な人と出会うことが大切だと思います。学生の時は自由にできることが多いので、その中で人と知り合って、つながりを大事にできたら良いと思います。仕事をしていても、何かあった時に「あの人がいるじゃない」相談してみよう、と思える事が大切だと思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー

秋山 彩華 (理工学部1年)



店舗から事務所側への廊下。テナントさんの研修室や更衣室もあります。

コラム 「キャリア・アンカー」
~エドガー・H.シャインのキャリア論~



学生就職支援センター
副センター長 小磯重隆

このコラムではキャリア論のご紹介をしていきます。今回は『キャリア・アンカー』です。キャリア・アンカーは、キャリアに関する自己概念(セルフイメージ)の一要素です。アンカーとは「船の錨(いかり)」のこと。ひとが長期のキャリアを歩む上で、自分の拠り所(アンカー)を自覚することが、真の自分探し、自分の価値を探ることにつながります。ちょうど遠洋航海に出ていく船のように例えられます。どの国に行こうか、どんなに遠く見知らぬ土地に行こうか、行った先で錨をおろすように、長い仕事生活(キャリア)を歩む上で、ひとは、どんな組織で、どんな仕事をしていても、そのひとの拠り所となる錨があります。それをキャリア・アンカーと呼んでいます。

シャイン教授は、ひとはキャリアの進展につれて自己概念を育むとしています。自覚された①才能と能力、②動機と欲求、③態度と価値、からなる自己イメージです。組織と個人との相互作用も関係します。はっきり成熟した自己概念を得るには十数年、それ以上の仕事経験が必要となるかもしれません。また、キャリアの初期では、自分の夢と仕事が変わらず、リアリティ・ショックが生じてしまうこともあります。

アンカーを知ることによって、航路から外れないように、安全な港に停泊することができるようになっていきます。質問票やインタビューへの回答で自分のアンカーを見つけていきます。8つのカテゴリーがあります。



＜キャリア・アンカーの8つのカテゴリー＞

1. <特定・専門指向> 特定分野のコンピテンス
2. <総合・管理指向> 総合経営管理コンピテンス
3. <自律・自立指向> 自律と自立と自由
4. <安全・安定指向> 保証と安定
5. <創意・創業指向> 起業家的創造性
6. <奉仕・貢献指向> 奉仕や社会貢献、献身
7. <挑戦・克服指向> 挑戦そのもの
8. <生活・様式指向> 調和的なライフスタイル



キャリア@通信 Voice②

“美味しい商品”を
提案していきたい!

株式会社シジシージャパン
生鮮・日配事業部 惣菜デリカチーム

きむら りょうた
木村 亮太さん
(平成 23 年 農学生命科学部卒 24 歳)

物の流れを知り、合せて商品
知識を勉強します。

●現在どのようなお仕事をされているか教えてください。

CGCグループは全国各地で加盟いただいているスーパーマーケットの協業組織です。商品の開発や調達、物流、情報システム、販売促進、教育などに取り組んでいます。その本部機能を担っているのがシジシージャパンです。私は惣菜デリカを担当しています。仕事は大きく2つに分れていて、ひとつは「お客様に商品を買っていただく仕事」、もうひとつは「商品開発のサポート」です。去年の夏からこの担当になります。

具体的には“鳥の加工品”を担当しています。色々な仕事がありますが、例えば、海外から買って倉庫に入った商品を、電子的なデータから何ケース出たかの業務的な仕事も行っていきます。物の流れを知り、合せて商品知識を勉強します。最終的には自分で考えた商品

を日本中の加盟店さんに届けたいと思っています。

●この企業に就職したきっかけは何だったのですか。

就職活動の前から、スーパーにある色々な商品に付いているCGCマークを見て「何?」と思っていました。どんな会社なんだろうと、自分で調べたり、会社説明会に参加するうちに、食品の会社で、商品開発とか加盟店に色々な商品を卸しているんだと知って興味を持ったのがきっかけです。

八戸出身なので県内企業さんや東北での就職を考えていました。でもやはり第一希望がCGCでした。



CGCグループの商品。ユニバースさんやマエダさんでも馴染みのある商品です。

入社後の研修で全部門の説明を受けるのですが、私は冷凍食品に興味を持っていて、特に「惣菜」が全国的に伸びている、好きなことでもあるし、チャレンジできると思って惣菜部門を希望しました。

その土地に行って、その土地
の物を食べて、考えます。

●仕事をしていて大変だった事、うれしかった事を教えてください。

営業エリアで東海地区と神奈川県、長野地区を担当しています。それぞれの地域で好まれる味や商品が異なります。例えば、東海地区では大きなエビフライが好まれますが、他の地区では大きいエビでも値段が高ければ売れません。味付けの提案の仕方も変わってきます。難しいですね。実際にその土地に行って、その土地のものを食べて、考えます。

「助かっているよ」とバイヤーさんに言ってもらえると、すごく嬉しいです。やってよかったと感じます。大学まで青森県にいたので、県外の人食べ物、味付けを知らないまま東京に来ました。出張で各地に行けば毎回新鮮な気持ちです。

「中食指向」!値が張らず、
美味しい商品を提案したい。

●惣菜分野でも御社がスーパーさんを支援しているのですか。

惣菜に限って言えば、今、「外食」ではなく、「中食指向」もあって買って頂いています。外食よりも値段が安く、美味しい食品を、家で食べて頂く訳ですね。デパートの地下ではレストラン顔負けぐらいに美味しい惣菜もあります。スーパーで購入できる惣菜として、値が張らず、美味しい商品を提案していきたいです。

テニスで集まる「飲み会」
かもしれません。

●弘前大学では、どのような学生生活でしたか。

正直に言うと、お酒ばかり飲んでいましたね。遅刻も何度もしていましたし…。ゼミでは皮膚の研究、皮膚がん、美容関係、アンチエイジングの研究をしていました。中学高校とずっとテニスをやっていたので大学でもテニスサークルで活動していました。

もともと食べるのが好きでした。学生時代一人暮らしだったので、自炊して、こんな調味料とこんな調味

料、具材と合せて…とやっていました。調理ではなくホールでの接客ですが中華料理店でもアルバイトしていました。

●東京での一人暮らしはどうですか。お給料は何に使っていますか。

だいぶ慣れました。東京の練馬区に住んでいます。仕事で食べることもあって太ってしまうので、家に帰ったら、走ったり、運動をしています。社内にテニスサークルもあります。年配の方や年齢の近い人など色々な方の話が聞けます。テニスで集まる「飲み会」かもしれません。

貯金はしていますが、お給料はあまりたまっていません。目新しい食材は常によく買っています。「これどんな味がするんだろう」と気になってしまいます。

旅行も2~3カ月毎によく行きます。ずっと北にいたので南に旅行したいと思っています。熱海や伊豆も行きたいですね。でも先日は弘前に行きました。追出しコンパで、後輩や同期で進学した友人に会いました。実はよく弘前に行っています。

旅行でも何でも!必ず
自分の力になると思います。

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

アルバイトをしたり学生の時でも、何だかんだお金を得ることがあると思います。そのお金は全部使っていると思います。旅行でもいいし、友達と何かをするのでも何でもいいです。絶対に一生そんな経験はできないので、必ず自分の力になると思います。できれば海外に行ってみるのもいいと思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー
丹藤 博孔 (人文学部1年)



木村さんの手がける惣菜を試食。右から2人目は人事総務の佐藤登さん。木村さんの先輩で弘大のOBでもあります。

弘前大学フォーラム

「課題解決型学習と学生の主体的な学び」



弘前大学では平成24年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け、第1回目となる弘前大学フォーラム「課題解決型学習と学生の主体的な学び」を2月6日(水)に開催しました。このフォーラムでは、地域企業の抱える経営課題を素材として学生たちが取り組んだ課題解決型学習の成果発表が行われました。成果発表会では、人文学部3年生35人および農学生命科学部3年生10人が10チームに分かれ、今年度取り組んだ課題の成果、自己の成長について発表しました。学生たちは、それぞれの活動を通して、チームワークや個々の役割の重要性を認識し、身に付けた「前に踏み出す力」を社会に出てから活かしたいなど、今後の抱負を語りました。

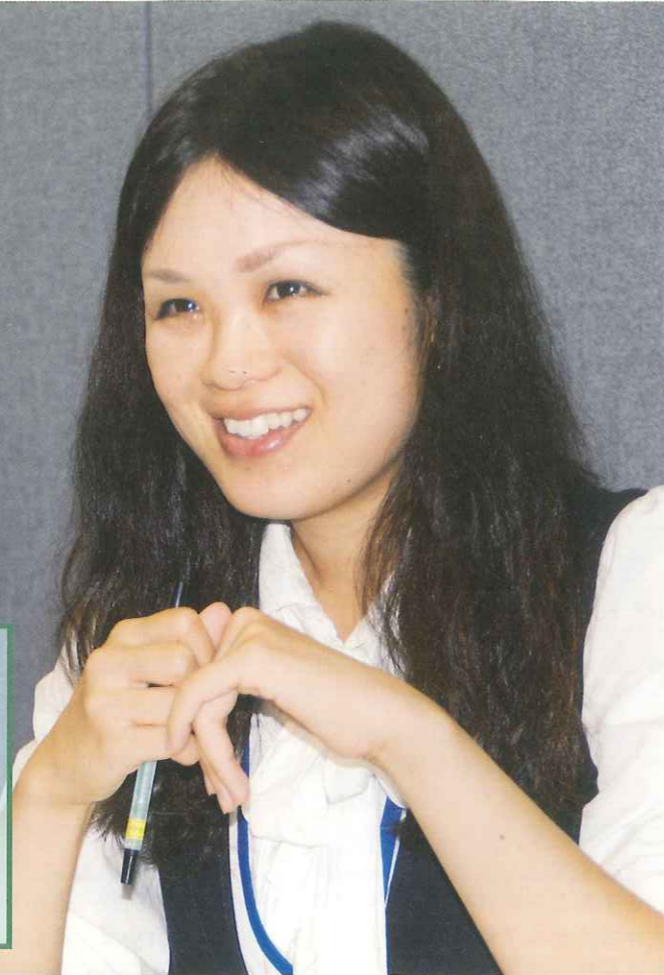


課題解決型学習は、学生が地域企業から提示された課題について検討し、その解決方法などを提案するものです。実際にはPDCAサイクルにしたがって企画(P)だけでなく、成果の検証(DCA)を実施し、より実践的な企画提案を行うことによって、学生の対人能力やコミュニケーション能力を向上させるだけでなく、地域企業の活性化を促すことを目的としています。

キャリア@通信 Voice③

仕事は”自分で見つける。自分で考える”が大切

独立行政法人
中小企業基盤整備機構
経営基盤支援部
ものづくり・環境経営支援課
かりの しほ
狩野 紫穂さん
(平成20年教育学部卒26歳)



中小企業をサポートする仕事をしています。

●現在どのようなお仕事をされていますか。

中小機構は、経済産業省所管の独立行政法人で、中小企業施策の総合的な実施機関としての役割を担っています。中小企業を元気にするため、創業から事業再生、海外展開など様々な業務があります。私は、ものづくり・環境経営支援課という部署にいます。新



東京虎ノ門から歩いてすぐのビルが職場。皇居も近く、省庁や大使館も多い。

しい研究開発を実施しようとしている中小企業さんに対してアドバイスやサポートをする仕事です。中小機構では企業OBの方を専門家として雇用しているのです。その専門家の方と連携して、いっしょに企業さんをサポートします。課の名称は変わりましたが、入社から5年、私は同じ仕事に取り組んでいます。

●「独立行政法人」の仕事をもっと教えてください。

官でも民でもやれないところが仕事になります。例えば、研究開発の支援

では、「中小ものづくり高度化法」をもとに、鍛造やメッキなど産業の基盤になっている22分野の技術をサポートしています。皆さんの知っている燃料電池とか自動車にもつながる技術ですよ。他に素材を変更したり、不良品を10個から5個に減らす技術なども支援します。中小機構ではスケジュール管理や研究開発の技術に関するアドバイスを、

経済産業局が契約やお金の支援をする連携を行います。

●仕事を覚えることは大変ですか。

学生の頃や入社したての頃は、「仕事」は与えられるものだと思っていましたが、「自分で見つける」ことが大切です。何をやるべきか与えられても、どうやって、どうするか、その仕事の最終形を自分が何をすべきかイメージして、考えて仕事をします。

“地元を元気にする”仕事がやりたい!と思いました。

●色々な企業を調べて、なぜ中小機構で働こうと思ったのですか。

はじめは地方公務員になりたいと考えていました。公務員の他に、地元の秋田県内の企業も受けました。公務系の仕事を調べるうちに、独立行政法人という組織に興味を持ちました。

自分の地元の秋田県も商店街がシャッター通りになってしまっていて、「街づくり」をやりたい!地元を元気にする仕事がやりたい!と思いました。地方公務員もよいのですが、中小機構だと全国的に、北海道も東北も

四国も...と思いました。ここだったら自分のやりたい「地元を元気にする」という仕事も全国の仕事もできると思いました。

●就職する前とイメージが違ったことはありませんか。

もっと地域や街づくりという自分のやりたかった仕事ができると思っていましたが、やはり色々な仕事があるので、そればかりではありませんね。それはそれで良いと思っています。支援している企業さんから「機構さんに来てもらって良かった」と言ってもらえると、本当に嬉しく思います。

仕事もやって、他の事も充実したいですね。

●どのような学生生活でしたか。

探検部に入っていました。北海道の山では遠くに熊を見かけたりしました。危ないですね。スーパーの試食を担当するアルバイトもしていました。教育学部の生涯教育課程で教員免許も取得しましたが、公務員を目指して勉強していました。科目が多いので大変でした。

●最近ご結婚されたと聞きました。仕事と生活はどう両立されていますか。

同じ機構の方と社内のサークルで知り合って結婚しました。朝はいっしょに出勤しています。職場の上司から、

なるべく“残業しないように”との指示もあり、時間内に仕事をきちんと終わらせるように心がけています。ワークライフバランスが大切です。仕事もやって、他の事も充実したいですね。

週末はテニススクールに通っています。社会人になってからはじめました。夫と知り合ったのは「虎ノ門・走ろう会」という陸上のサークルです。4人一組の駅伝の大会に出場しています。他にフットサルや色々なサークルがあります。スポーツする人が多いですね。

●お昼休みや通勤はどのようにですか。

お昼休みは12時から1時です。いつもお弁当を作って持ってきます。会社のまわりに食べる所もあるのですが、値段がちょっと高いですね。職場の服装は自由です。虎ノ門駅が近いのですが、地下鉄の銀座線は込んでいて通勤は大変です。今は小田急線沿線に住んでいます。

入社してからは会社の独身寮に住んでいました。同期入社の人もいて寂しくはなかったです。秋田なまりの言葉は自分では気が付かないんですけどたまに人に言われます。会社には関西の人、沖縄の人、色々な人がいます。

頑張っている会社、良い会社がたくさんあります!

●弘前大の後輩に何かメッセージをお願いします。

皆さんが知っている企業だけではなく、知らない企業にも頑張っている会社、良い会社がたくさんあります。就職活動では、色々な企業をリサーチしてみると良いと思います。これは自分の反省でもあります。勉強は学生の本業なので、大切だと思います。今、奨学金を返しながら、もっと勉強しておけばよかったと思っています。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー

加藤 萌恵 (教育学部2年)



事務所の前。隣の部署は中小企業の海外展開を支援しているとのこと。



21世紀教育 (キャリア教育) 社会と私-仕事を通して考える

21世紀教育では特設テーマ科目「社会と私-仕事を通して考える」を前期と後期に開講しています。雇用社会を理解し、自分自身について知り、社会にある色々な職業、企業を知り、自分の進路を歩むための方法を学びます。講義の約半分は、地域の職業人の方々に迎えて、直接お話を聞き、考える時間です。自分の将来への展望を考える基礎を身に付ける授業です。



弘前航空電子株式会社取締役総務部長の齋藤悦朗氏を招いての授業。人文学部卒の大先輩です。



今年度は、前期166名、後期196名の合計362名がこの授業を履修しました。



第4回目授業：自己分析 (nEQ)。自分を知って社会を知ることも課題のひとつ。

<講義の内容>

1. 働き方について
ガイダンス、働くルール
2. 仕事を通して考える①
職業人を迎えてキャリアを考える
街づくり、男女共同参画、金融など
3. 自己の理解
自己分析、キャリアアンカー
4. 仕事を通して考える②
職業人を迎えてキャリアを考える
地域産業、製造業、教育など
5. 自分の進路と就職活動
キャリアデザイン、就職活動

弘前大学インターンシップ



10月30日総合教育棟404講義室で、平成24年度弘前大学インターンシップ事後報告会が開催されました。

45名の学生が夏季休暇を中心に企業で就業体験を行いました。報告会は、受入企業から2社ご参加いただき、4名の学生が代表して体験報告を発表しました。



←学生からの体験報告。4名の学生が代表して発表しました。

インターンシップ事後報告会。青森県内の他、北海道や東京で体験した学生もいます。→



大学主催『合同企業説明会』



2月13・14日弘前大学主催「合同企業説明会」が開催され、県内外207社の企業採用ご担当者の方々にお集まりいただきました。2月9日には医学部保健学科主催で医療関係のみの説明会が本町校舎で開催され、医療関係116施設にお集まりいただきました。



↑『合同企業説明会』の風景。企業の各ブースに学生が訪問します。



Hirosaki University
Student Career Center

編集後記



弘大『キャリア@通信』の読者は学生です。社会で活躍している弘大卒業生のお話を聴くことで職業観やキャリア意識を培ってください。大学教職員のほか、皆さんを多くの先輩達がサポートしてくれます。

左側に描かれている赤いりんごとハートはセンターのマークです。りんごは青森県を、赤いハートは学生の皆さんや企業の方々に応対する教職員の精神を象徴しています。我々も皆さんと同じ思いを持って就職活動を支援し、皆さんひとり一人、りんごのように大きく実ってほしいとの願いも込められています。



加藤 萌恵（教育学部2年）

弘大の先輩のお話を直接聞くことができ、私自身仕事について考える良いきっかけになりました。



船水 彩（人文学部3年）

とても有意義な取材でした。先輩方の仕事に対する誇りや熱意を写真から伝えられれば嬉しいです。



丹藤 博孔（人文学部1年）

実際に働いている方のお話を聞けたおかげで社会に出て何をすることを考えるようになりました。

表紙の写真

東京駅赤レンガ駅舎のシンボル、丸屋根ドーム。今年度、保存・復元工事が終了しました。外観を創建時の姿に忠実に再現するほか、地震にも耐えうる免震工法で施工されています。取材で二度、東京駅を訪れました。



秋山 彩華（理工学部1年）

普段は“知ることのできない仕事”を聞くことができ、良い機会となりました。

弘大『キャリア@通信』vol.004 平成25年3月27日
編集・発行//弘前大学学生就職支援センター
取材学生スタッフ//加藤萌恵、丹藤博孔、秋山彩華
撮影//弘前大学写真部 船水彩

